新刊紹介

板碑遍歴六十年

石井真之助著

近来、遺物遺跡の研究は、正にブームといってよいが、その動向を見ると、新出史料の発見にのみ強い関心が向けられ、学史的な業歴を十分にふまえない傾向が見うけられる。中世の石造遺物研究などにおいても同様である。ここ数年前から特に活発にすすめられている中世の特異な形態の留意すべき石造遺物である板碑研究も、地域ごとに詳細な研究がなされるとともに、板碑の源流、性格の問題、さらには、その宗教史的意義など究明されつつあるが、このような研究を一層すすめていくためには、先学の業績を十分に認識し吸収しておくことが必須といわねばならない。このような時に、六十年の長きに亙って板碑研究を重ねてこられた方による本書の出刊は、学界に裨益するところ大という常套賛辞をいうより、後進学徒の研究方法に対する頂門の一針といってよい。

本書は、関東地方を中心に各地の板碑の優品を百五十基えらび、そのすぐれた柘影技術による柘本を年代順に配列し、且つ、それに解説を加えられたものである。板碑研究史を観ると、例えば『板碑概説』などの大著はなされているが、板碑の柘影をこれ程までに数多く、また克明に示された例はない。近時の遺物研究者の多くは、写真機器、フィルム等の進歩により、写真記録のみにたよるきらいがあるが、著者が序文でいわれているように、写真では至らぬ領域のあることを再認識しなければならぬ。判読しにくい造立年月日等の刻銘を柘本によって明らかにし、しかも縮尺でなく原寸大の記録を直ちにうることができるといった自明のことのほかに、何よりも柘影の美は写真とは違ったすばらしいものであり、本書は、それを如実に示してくれている。

解説は、板碑の所在地、大きさ、状況、碑面の仏像、種子、造立年月日、造立趣意、偈文等の事項については勿論、克明に記されているが、調査、手柘行の状況を、紀行風に記されており、板碑のたつ風景を思いうかばせてくれてたのしくよませてくれる。特に著者が序文でも述べておられるように、偈文の解読に力を入れられている。偈文は、仏教を研究する者以外には、なじみにくい難解なものであろうが、本書においては初心者にも理解されうるよう実に平易に懇切に解説されている。六十年の蘊蓄を傾けたこの偈文研究は、板碑研究史の上で特記すべきものといえよう。高齢の著者がこのような大著をなされたことに心から敬意を表するとともに、本書をもととして、特に適切に加えられた偈文解説をよりどころとして、さらに板碑の仏教史的考察をすすめていくのは、後進研究者の責務であることを痛感して拙い紹介の筆をおく。（A4版、序文三頁、柘本図版一五〇頁、図版解説八九頁、四〇〇〇円、木耳社、昭和四十九年四月刊）。（堅田　修）

義門研究資料集成　別巻(一)　三木幸信編

本書は、義門研究資料集成（上)(中)(下)(別巻(一)）に続くもの

で、その内容は㈠伝記関係書〔一・先考義門略伝、二・白雪楼老師年譜、三・東条義門師伝、四・妙玄寺歴世系譜抄、五・妙玄寺歴世系図抄、六・妙玄尼公画像之記裏書〕㈡日記紀行〔一・いそし水、二・別本雅文あととひのにき、三・蹤問廼日記、四・袖ぬれ廼日記〕㈢仏暦の研究〔一・須弥山儀募疏序講解、二・須弥山儀器断片〕㈣内外胎教略　㈤書簡〔義門書簡（①長女岡野②宛浄妙寺隠居宛③浄妙寺昇道宛④新井守村⑤宛新井守村義門往復書簡）〕を翻刻し、解題を附したものである。（昭和四九年三月三〇日刊　A5判四二一ページ　一二〇〇〇円　墨水書房）

仏教文学研究　第二期第一集　仏教文学研究会編

本書は、仏教文学に関する研究論文集で、第一期十二冊に続くものである。論題と執筆者は次の通りである。(1)発心和歌集と大斎院選子（目加田さくを）(2)方丈の縁（庵逧巌）(3)平家物語における発心譚（渥美かをる）(4)秋成文学に現われた「発心」の事情（鷲山樹心）(5)発心を妨げるもの（井手恒雄）(6)浮舟還俗の問題の検討（門前真一）(7)和泉式部集の「月」（岩瀬法雲）(8)『俳諧類船集』に現われた聖徳太子と弘法大師（富山奏）(9)カヤカベ教のおつたえ（星野元貞）(10)儒教的歴史意識と仏教観（早島有毅）(11)蒲原有明の『マンダラ』詩（仲野良一）以上、十一編。（昭和四九年七月二〇日刊　B6判二八七ページ　二二〇〇円　法蔵館）

新修浅井了意〔笠間選書11〕　北条秀雄著

本書は、昭和四七年三月に出版された『改訂増補浅井了意』〔笠間叢書26〕を基にして、最近の資料を加えて考察されたものである。その内容を次に示す。第一章仮名草子と浅井了意、第二章浅井了意と本性寺昭儀坊釈了意〔第一節一人説、第二節二人説〕、第三章了意の出自・生涯を辿る、第四章了意の肉筆・鐘銘其他〔第一節天台三大部奉納願書、第二節太上感応篇説定、第三節了意撰になる鐘銘、第四節鬼利至端破却論伝と天草四郎、第五節絵入古今狂歌仙、第六節難波物語、第七節出来斎京土産〕、第五章著書の考証・解説〔第一節仏書、第二節仮名草子及び仏書以外の作品、第三節著作年譜〕（昭和四九年九月一五日刊　B6判二五〇ページ　一〇〇〇円　笠間書院）

仏教説話研究　石橋義秀著

本書は、五編の論文㈠平安朝に於ける弥勒信仰、㈡平安朝に於ける来迎信仰の展開、㈢平安朝仏教説話集に現われた観音信仰、㈣『日本往生極楽記』と『今昔物語集』巻十五、㈤『今昔物語集』巻十七と『地蔵菩薩霊験記』に『今昔物語集』研究文献総覧〔(1)現存諸本、(2)江戸時代の関係文献、(3)明治以後の刊本（本文・注釈）、(4)研究書、(5)研究論文〕を附したものである。（昭和四九年一月一〇日刊　A5判二〇一ページ　※私家版のため希望者には実費一五〇〇円で頒布。申込先、堺市浜寺元町五丁五五二・善正寺）

（片岡　了）